

七月のテーマ

活路はどこの



え・古屋智子

# 小さなことから拓ける道

**活**路はどこにあるのかという問いについて、倫理研究所の二代目理事長・丸山竹秋は、次のように述べています。

活路は実は足もとにあるのだ。

誰でも見つけやすい場所に光っているのだ。『繁栄の法則』

迷いを解決する道は、どこか遠くに拓けているのではない、活路は常に足もとにあると心得、日々、小さなことから変えていくトレーニングをしていきたいものです。

\*

始まりはどんなことでも小さいものです。その小さなことを大切にしていくと、よく気づく人になっていきます。小さなことに感動し、小さなことを喜べる人は、とても幸せな人です。

小さな実践を繰り返し続けていくと、必ず自信につながっていきます。そして、信用される人、信頼される会社になっていきます。

コツコツという言葉は、漢文の「兀兀(こつこつ)」という語からきているといわれています。「兀」という字にはもともと「動かない」という意味があり、それを重ねて「地道に働くさま。たゆまず努め励むさま」を表わします。コツコツと地道に積み重ねることが、大きな変化の原動力になっていくことを体得しましょう。

「小さな力が、やがて大きな力になる」という意味では、「箸(はし)よく盤水(ばんすい)を回す」という諺(ことわざ)があります。たらい一杯に張った水の真ん中を、細い一本の箸で根気よく回し続けると、周りの水が回り始め、最後には、たらいの水全部が回り始めるという意味です。

つまり、たとえ小さな力でも、繰り返しやり続けていくと、必ず大きなものを動かす力が出てくるということなのです。

\*

では、その「小さなこと」とは、どのようなことでしょうか。まず、一日のスタートである朝目が覚めたら、サツと起き上がることです。一日のスタートが爽やかであれば、仕事に追われる生活から、仕事を追う生活に変わって

いきます。精神的にも時間的にもゆとりができ、物事が順調に進んでいきます。自然のリズムに合った生活は、自分ではどうすることもできない癖を取り除いてくれるでしょう。

次に挨拶です。朝起きた時、食事の時、外出する時、人に会う時、別れる時、帰ってきた時、夜休む時：と、実践の機会は常に身近にあります。明るく大きな声で、心を込めて先手の挨拶を行ない、経営者から挨拶のお手本を示していきます。

こうしたことを習慣化すると、積極的な人生を送ることにつながり、人間関係もより良くなっていきます。

さらに心がけたいのは、気づいたらすぐすることです。「気がつく」ということは、人間の力で考えたものではなく、自然が人間に気づかせてくれる叡知なのです。

気づいた時、サツと行動に移すこと。それが成功の条件であり、そのチャンスはいつも目の前にあるということなのです。